

送り出し教育資料

～新しい工事現場で事故や災害を起こさないために～



| |
|-------|
| 年 月 日 |
| |

| |
|------------|
| 配置現場に関する事項 |
|------------|

工事名称：_____

発注者：_____

作業所名：_____

所在地：_____

TEL: _____ FAX: _____

| | | | |
|----------------------------|-----------------------------|---------|-----------------------------|
| 工事概要 | | | |
| 施工体制 | → 自社 | | |
| 自社工事内容 | | | |
| 工期 | 元請 | 年 月 日 ~ | 年 月 日 |
| | 自社 | 年 月 日 ~ | 年 月 日 |
| 元請作業所 工事体制 | ■現場代理人 氏名：_____ | | ■監理技術者（主任技術者） 氏名：_____ |
| | ■工事監督 氏名：_____ | | その他（ ） 氏名：_____ |
| 1次協力会社 工事体制 | ■安全衛生責任者 氏名：_____ | | その他（ ） 氏名：_____ |
| 安全衛生管理 計画、施策 | 元請 | 提供資料参照 | |
| | 自社 | | |
| 配置人員 (健康状態を確認) | 職長： | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 自社工事の 作業主任者 | （ ）作業主任者 正：_____ 副：_____ | | （ ）作業主任者 正：_____ 副：_____ |
| 資格が必要な 業務 | | | |
| 通勤ルート及 び注意事項 (地図を活用) | (例：宿舎～国道〇〇号線～県道〇〇号線～現場) | | |

| | |
|---|--|
| <p>作業方法等</p> <p>作業手順については要領書・手順書を活用</p> | <p>使用する仮設備・機械・工具・原材料等の使用上の注意点、使用する保護具等</p> |
| | <p>使用資機材</p> |
| | <p>使用保護具</p> |
| | <p>注意点</p> |
| <p>元請からの 連絡事項及び 注意事項</p> | <p>現場環境、資機材搬入ルート、緊急時の連絡体制、作業所ルール等</p> |
| | <p>連絡事項</p> <p>注意事項</p> |
| <p>事業主から 作業員への 伝達事項</p> | <p>担当工事に対する基本方針等</p> |
| | |
| <p>備考</p> | |

一般事項

1. 送り出し教育の目的

建設現場では、下記のような危険があるため、現場に入場する前に、安全の基本ルールと新しい現場の特性について教育を行い、災害の防止に努めなければなりません。

- ① 新しい建設現場は、作業場所の広さ、足場の形状、機械の配置等が違うため、作業者の勘違いや、うっかりミス等でケガをする危険が高くなります。

※建設工事でケガをした人の約半数が、入場後1週間以内です。

- ② 新しい建設現場では、作業場所の確認や作業手順の検討および他の業者との連絡、打合せ等で作業責任者や作業指揮者も注意力が低下しがちです。
- ③ 建設現場で発生している災害の要因は、約90%がヒューマンエラーです。

2. 交通ルールとマナーを守って安全な運転と行動で通勤する。

通勤途上の交通事故やケガは、自分自身や家族がづらい思いをするだけでなく、建設現場で働く仲間や、自分の会社、元請会社にも迷惑をかけることになります。通勤は、時間に余裕を持ち、交通ルールとマナーを遵守してください。

3. ○○○○○建設工事のルールを守る。

○○○○○建設工事では、下記のルール（決まり）があります。現場全体の作業に迷惑をかけないように、現場のルールを厳守してください。

- ① 現場への入場時間および朝礼時間
- ② 現場への進入経路
- ③ 現場内の通行ルール
- ④ 駐車の方法
- ⑤ 喫煙場所
- ⑥ その他



4. 持ち込み機器は事前に点検整備を行い、必ず使用前点検を行う。

現場での作業が安全に段取り良く進められるように、現場へ持ち込む機器について次のことを守ってください。

- ① 現場へ持ち込む機器は、事前に点検整備を行い、いつでも使用できる状態にする。
- ② 持ち込みにあたっては、元請の許可（証）を受ける。
- ③ 日常作業では、必ず使用前点検を行う。
- ④ 作業終了後は、電源（バルブ）を切り（閉め）雨やほこりがかからないよう格納または、カバーをかける。

5. 作業手順を守る。

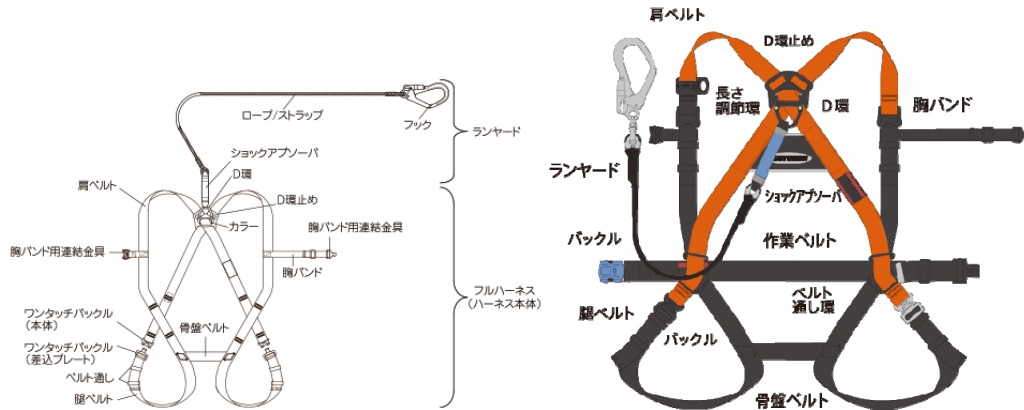
作業の順番を変更したり、一人で無理な作業をすると事故やケガにつながります。次のことを守ってください。

- ① 事前に指示された作業手順を守って作業する。
- ② 作業手順を変更する必要がある場合は、自分勝手に判断せず必ず作業責任者に連絡して指示を受ける。
- ③ 資格が必要な作業は、必ず有資格者が行う。



6. 高所作業では、次のことを守る。

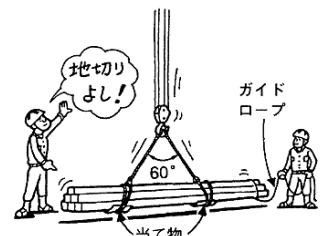
- ① 5m を超える高所作業では、フルハーネス型墜落制止用器具を使用する。
2m 以上 5m 以下での高所作業では、胴ベルト型墜落制止用器具を使用してもよい。
- ② 使用可能な最大質量に耐える器具の選定及びショックアブソーバーは、フック位置によって適切な種別（第一種・第二種）を選択すること。



- ③ 墜落制止用器具は、点検整備を行い、適正な状態を保つ。
- ④ 墜落制止用器具のベルト等は緩みのないようしっかりと締める。
- ⑤ 高所作業中は、常に墜落制止用器具のフックを手すりや親ロープ等に掛けて作業する。
(ロック機能付き巻取り式ランヤード 2 丁掛けを推奨)
- ⑥ 物が落下しないよう、不要な物は片付ける。また、使用する工具は、落下防止ひもを使用する。
- ⑦ 開口部は、フタや囲いをする。

7. 玉掛け作業では、次のことを守る。

- ① 玉掛け技能講習の資格を持っている者が玉掛けと合図を行う。
- ② 吊り荷の重さや形に合った吊り具を使用する。
- ③ 吊り具は、必ず使用前に点検してキズ等がないことを確認する。
- ④ 吊り荷には、介錯ロープを取り付ける。
- ⑤ 吊り荷の下や、吊り荷と物の間に入らない。
- ⑥ 吊り荷を運搬する時は、周囲の作業員に声を掛けて退避してもらう。



8. 火気を使用する作業では、次のことを守る。

- ① 火気作業を行う場所には、消火器・消火水を設置する。
- ② ガス溶断作業や溶接作業の火花が飛散しないよう防災シート等で囲う。
- ③ 作業中断時や作業終了時は、消火を確認してから作業場所を離れる。

9. 整理整頓（一作業一片付け）する。

不要な物が置きっぱなしになっていたり、機材の置き場所がバラバラだったりすると、作業中につまづいたり、物が倒れたりしてケガをする危険があります。作業場所では、次のことを守ってください。

- ① 通路や階段には、不要に物を置かない。
- ② 使い終わった機材や梱包材は、こまめに片付ける。
- ③ 他の作業の邪魔にならない位置に機材置場を設置し、囲いや表示をする。

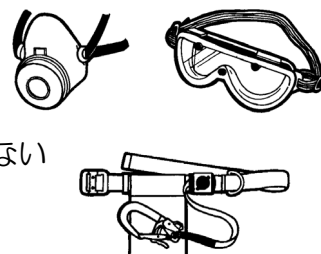


- ④ 毎日の作業終了時に、整理・整頓・清掃を行う。
- ⑤ 産業廃棄物は、決められた場所に分別して置く。

10. 保護具は、点検整備して作業に適したものを使用する。

保護具は自分の身体を守る兜や鎧のようなものです。保護具の使用について、次の事を守ってください。（保護具：安全帽、安全靴、手袋、マスク、メガネなど）

- ① 作業内容に適した保護具を使用する。
- ② 自分の身体に合った保護具を使用する。
- ③ 定期的に点検、清掃して損傷や汚れがないようにする。
- ④ マスクやメガネは、作業場所に置きっぱなしにせず、使用しないときは専用の容器やロッカー等に入れておく。



11. 作業中に体調が悪くなった時は、すぐに作業責任者に申し出る。

特に、夏場の作業では、熱中症に対する注意が必要であり、作業中に体調が悪くなった時は、すぐに作業責任者に申し出て休憩をとり水分を補給すること。体調が回復しないときは、作業責任者の指示に従って病院で診察を受けること。

睡眠不足や風邪または、二日酔いでは、注意力が低下してケガをする危険が高くなります。暴飲暴食に気を付けて、しっかりと睡眠をとりましょう。

12. 作業中にケガをした時は、必ず元請に連絡する。

もしも、作業中にケガをした時は、次のことを守ってください。

- ① “どんな小さなケガでも” すぐに職長や元請職員に連絡する。
- ② いつ、どこで、どんな作業をしていて、どんな事が原因でケガをしたか報告する。
- ③ 医師の治療を受ける。

13. その他

同じ建設現場で働く仲間同士が安全に、元気に、気持ちよく仕事を続けられるよう、明るく挨拶を交わしましょう。

- ★おはようございます。
- ★ありがとうございます。
- ★おつかれさまでした。
- ★ご安全に！



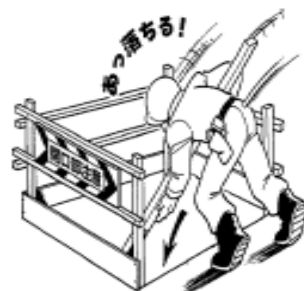
以上、ここに書かれた内容は、建設現場で働く上で最低限守るべきルールです。職種によっては、専門的な事項もありますので、職種に応じて追加教育してください。

追加教育参考資料

（職種、現場環境に応じて予想される災害および危険性を教育して下さい）

1. 墜落・転落災害防止

- ①手すり、柵は作業前に確認する。
- ②手すり、柵等を作業の都合で取り外した場合は、必ず復旧する。
- ③はしごの上部は 60cm 以上突き出し、滑らないように固定する。
- ④脚立は踏み面付きで、開き止めが確実なものを使用する。
- ⑤脚立足場の板は 3 点支持とする。
- ⑥昇降には昇降設備を必ず使用する。（道具、材料を持ての昇降は絶対しない）



2. 重機関係災害防止

- ①作業開始前に機械の点検を必ず実施する。
- ②建設機械の作業半径内に立ち入らない。
- ③現場内の車両制限速度を守り運転する。
- ④休止時は決められた所定の場所に駐車する。
- ⑤機械は主たる目的以外に使用しない。



3. 電気災害防止

- ①濡れ手、素手で電気機器を扱わない。
- ②配線の結線、修理は独断で勝手に行わない。
- ③番線、鉄筋、木材等を電線に触れないに注意する。
- ④電動器具には必ずアースを取り付ける。
- ⑤ヒューズは規定のものを使用する。
- ⑥地上配線は極力しないようにする。



4. 火災・爆発災害防止

- ①火気の使用は、職長を通して元請会社に必ず届けること。
- ②鉱油類（ガソリン・軽油等）の取扱いは、現場のルールに必ず従うこと。
- ③ガスボンベの保管は、所定の場所に覆いや固縛等の措置を行う。

5. 中毒・酸欠等災害防止

- ①粉じんが飛散する作業、場所では、必要に応じて防じんマスクを使用する。
- ②有機溶剤を使用する作業は、必要に応じて防毒マスクを使用する。
- ②騒音場所で作業する時は、必要に応じて耳せんを使用する。
- ③振動工具を長時間使用する時は、必要に応じて防振手袋を使用する。
- ④酸欠が疑われる場所では十分換気をし、酸素濃度 18%以上を確かめてから入る。

6. 第三者災害防止

- ①第三者に対しての言動には気をつける。
- ②むやみに他人の敷地、その地に立ち入らない。
- ③第三者安全通路は、適時清掃を行い清潔にしておく。
- ④開口部を離れる時は、ガードフェンス、保安灯、安全ネット等の措置を必ず行う。
- ⑤第三者と接触する場所での作業は、必ず監視人を配置する。